奈良・藤原京跡

1 所在地　奈良県橿原市城殿町

2 調査期間　一九八八年（昭63）六月～七月

3 発掘機関　奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

4 調査担当者　代表　牛川喜幸

5 遺跡の種類　都城跡

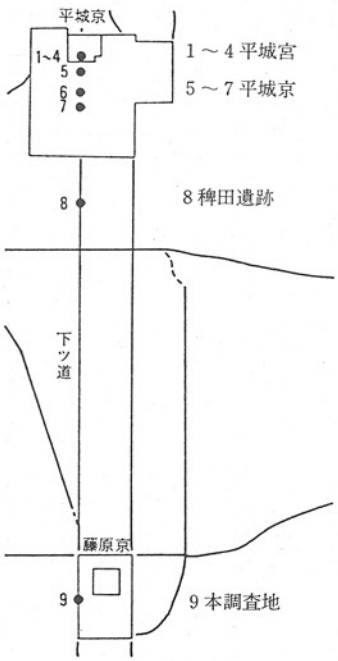
6 遺跡の年代　七世紀～一〇世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は右京七条四坊に当り、遺存地割などから藤原京西京極大路および下ツ道の存在が予想された。調査は、藤原宮第五八―五次調査として、下ツ道東側溝の検出を主たる目的に実施された。

検出した主な遺構は、四条の南北溝と溝を堰止めたと考えられる溜まりである。四条の南北溝のうち下ツ道東側溝に当る南北溝ＳＤ一九〇には新旧二条の溝があり、規模はともに幅一・五～二・五m、深さ〇・八～一・二mである。新旧二時期の下ツ道東側溝のうち、古い溝であるＳＤ一九〇Ａからは七世期初めから後半代に至る時期の土器が出土しており、また新しい溝であるＳＤ一九〇Ｂからは一〇世紀の土器が出土している。下ツ道はこれまで、平城京内・外で八ヵ所確認されている。今回の成果とあわせて、下ツ道が藤原京域から、平城京域までほぼ一直線に設定されたことが確認された。

木簡はＳＤ一九〇Ａから四点が出土したが、いずれも墨痕が確認されるだけで、判読はできない。そのほかの出土遺物には曲物側板・底板、匙、斎串、工具の柄などがある。



下ツ道関係調査位置図

8 参考文献

奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(九)』（一九八九年）

同『飛鳥・藤原宮発掘調査概報19』（一九八九年）

（橋本義則）